

市教組は、全国学力学習状況調査をはじめ、小学生すくすくウォッチや小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストなど、多くのテストが実施されていることを問題視し、学校現場の状況を把握するため、アンケート調査を実施しました。

小学校では、全国学テとすくすくウォッチが同時期に実施され、教員や子どもに大きな負担となっています。また、全国学テの中学校英語では機器の不具合が多発し、現場にかなりの混乱をもたらしました。

市教組は、この調査結果をもとに教育委員会と協議を行い、テストの精査や改善に向けて取り組みをすすめます。

なお、調査結果については、以下のとおり。

1. 事前対策について（教科によって行った科目と、行っていない科目があるので、合計は100%にはなっていません。[]内は前年度の数値です）

① 行った	54%
ア 教員が必要と感じて	45% (46)
イ 校長の指示で（市教委の要請あり）	1% (6)
ウ 校長の指示で（市教委の要請は不明）	7% (8)
実施時期（複数回答あり）※ %は「行った」内の割合	
ア 前年度3学期	22% (23)
イ 春休みの宿題として	9% (12)
ウ 今年度4月	69% (67)

② 行わなかった	47%
ア 例年行っていない	41% (41)
イ 例年行っているが、今回は行わなかった	6% (5)

- 管理職の指示はなかったが、「学校力アップコラボレーター」が、過去問から出そうな漢字を予想した「練習問題」を持ってきていた。経年調査については「若手研修」と称して、コラボレーターが教育センターの指示として「こういう問題が出るから、こう教えるように」という研修をしていた。そもそも教育センターが、「全国学テ」や「経年調査」をどうとらえているのかがわからない。
- 事前対策を行う年と、行わない年がある。
- 経年調査は明らかに学校ぐるみで対策を行った。
- 教科や取り組む時間の有無に応じて、毎年変わる。

2. 児童・生徒質問紙調査について

- | | |
|-------------|----------|
| ア 回答用紙で行った | 44% (97) |
| イ オンラインで行った | 55% (3) |
- 質問がとにかく多い。子どもの回答も本当かどうか…。
 - 最後の画面まで行けなかった児童が3名いたことが、締め切り日ギリギリで判明し、対応した。
 - タブレット自体の不具合がたくさんあったので、急遽、回答を紙ベースに変更した。
 - 個別のQRコードは端末の問題で読み取りが困難。
→すぐ読み取れた児童と比べ、5～10分差があった。
 - 外国にルーツがある児童は、コピペして翻訳させた。
 - ルビ付が変な日本語になっていた。
 - 登録の番号とずれてしまっていて、再度やり直さなければいけなかった。
 - 日程の指定があり、行事予定を再編成する必要があった。
 - 事前の試しが不要。当日のみでOKにしてもらわないと手間が多い。
 - 時間が長く、負担が大きい。各教科の質問をテスト後ではなく、質問紙に入れる方がよい。
 - マニュアルの読み込みや事前準備、エラー対応などで膨大な手間と時間を費やした。このような負担を現場に負わすのであれば、専門のスタッフを各校に派遣して、そちらで対応するくらいのことはしてもらいたいと強く願う。

3. 英語「話すこと」調査のオンライン実施について（中学のみ実施。無回答があったので、合計は100%にはなっていません。）

- | | |
|-------------|-----|
| ア 問題なく実施できた | 44% |
| イ 不具合が発生した | 52% |
- つながらない生徒がいて、再度行った。
 - 学校のアクセスポイントを使う前提で準備をしたが、接続が非常に悪く、2時間で6クラスを実施する予定が3クラスだけしかできなかった。そのため次週に残り3クラスを実施することになり、その間、他学年も含め電源を入れることができなかった。バージョンアップの時期とも重なったために深夜まで残業することになり、非常に困惑・混乱・疲弊した。現在の大阪市のインターネット環境で、大規模校（1学年6クラス以上）のタブレット活用は無理がある。モバイルルータのみを使うことやバージョンアップなどについて、教育委員会からの

助言・支援もない。教育現場に任せすぎである。

- うまくオンラインが繋がらなかった。問題の音声がとんだりなど、各クラス5人程度不具合があった。後日、不具合があった生徒を呼んで、再度調査をしようとしたが、うまくつながらず、実施できなかった。
- 機器がフリーズして問題に取り組みめない場面や、操作しなくても問題が先走りして解答できない場面があった。
- 録音できなかった。
- 各クラス数名、6クラス計15名程度、不具合があった。
- 事前検証（2月）も行ったが、生徒によってはタブレットの操作（キーボード or タッチパネル）によるミスが発生した。教室を3分割したり、録音の確認も含めて、手順や準備が大変だった。当日も取り直しができるようになっていて、取り直しの準備を管理職にお願いしたが、手順にとまどい、何回も何回もお手数をかけてしまった。
- ヘッドホンがうまく機能しなかった。
- 教室が狭いので、隣の人の解答がわかってしまう。
- そもそも無理があつて、隣の声も聞こえるので正しい調査とまらない。
- 事前検証がいらす操作しやすい画面構成がいいかと思う。
- 準備がとても手間取る。その割にテストの時間は短いため、教員負担が大きいと思った。

4. 各教科の出題について（無回答があったので、合計は100%にはなっていません）

- | | |
|-------------------|----------|
| ア 適切な出題がなされていた | 66% (63) |
| イ 児童・生徒にとってわかりにくい | 20% (26) |
- どの教科も問題をしっかりと読み取ることができないと解答することが難しい。
 - 求められる学力だとは思いますが、現場では難しさを感じる。
 - 問題が複数ページに渡るので見にくい。
 - 普段のテストと形式が違うのでわかりにくい。
 - 読む量に対して答える量が極端に少ない問いや、長文を記述させる問いにより、数学が得意な生徒ができないことがあった。
 - 事前に問題に慣れていないと、得点しにくい状況がある。
 - 生徒には問題の読解力の面で、難解なところがあった。
 - 普段の生活とかけ離れた設定の問いがある。

5. 全国学テや小学校経年調査、すくすくウォッチ、チャレンジテストの結果が、自分の評価に影響していると感じますか？

(無回答があったので、合計は100%にはなっていません)

ア 感じない	61% (66)
イ 感じる	30% (35)
ウ 実際にリンクしている	4% (3)

- テスト結果が評価に関係するという噂があるので少し気にはしている。
- 自分の評価には関係していないが、学校の評価には関係しているのか、学力アップ支援事業の重点支援校になり、授業研究や児童の実態にあっていない指導の講習があり、職場の若手が疲弊しています。
- 全国学テに関しては感じる。
- 経年調査と実際にリンクしている。
- 児童生徒のテスト結果を教員の成績に反映させるのは、教員の職種の特性に合わない。すべてにおいて逆効果と感じた。
- 人事考課などに書いているのでリンクしていると思うが、実態もそれぞれなのに、年度始めの児童理解に努めているときに、目標を決めさせられるのはいかがかと思う。そもそも上記の調査が何にもいかされていないと思う。
- 人事考課の目標に経年調査の項目を入れることが多いので、おのずと評価に影響していると感じる人もいる。
- 目標に書くのが無理なので。管理職も理解してくれていると思っている。
- 以前の6年生が、全国学テの国語が伸びたのを2人の管理職が褒めに来た。
- 運営の計画に盛り込まれ、教員の自己評価にも数値化した目標を入れてと言われると、必然的に経年調査等の結果を反映させることになる。
- 実際に指標になっているように感じる。
- 久しぶりの高学年なので、すくすくと全国学テは現時点ではあまりわからないが、経年調査は感じる。
- わからないが、数字で出てくるので責任を感じざるを得ない。
- 知事や市長の報道での発言から、そう感じる
- テストは必要ない。
- まだ結果が戻ってきていないのでわからない。
- 学力は、すぐに結果としてあらわれない。
- そもそも教員の評価に反映されるとは知らなかったの、そこまで考えていなかった。
- チャレンジテストの結果は府の平均を上回ったが、特に評価が上がるようには感じない。

- チャレンジテストの結果で評価が高くなり、授業を適当に受ける子どもが増えてくる。4教科の先生は子どもが適当にやるので困っている。
- 平均点が高い方なので、これくらいのテスト点数で4になるのと思う生徒が毎年いる。
- 全国学テやチャレンジテストを実施しない教科はどうするのか。
- 各教科、主となって指導している担当教員の調査が昨年からありました。
- そうならないよう強く要望。
- 自身の教科が音楽なので、詳しく分からない所もある。ただ、5教科の先生方は、やはりテスト前にテスト対策を行ったりしてるので、多少の影響はあるかもしれない。

6. その他、問題点や課題、ご意見等

- 同じような調査やテストが多すぎて、児童にも教員にも負担が大きい。
- 新学期すぐ、学級をまとめていく中での全国学テやすくすくは、各担任にとっては貴重な時間を割いてまですることではない。また、学校には結果を分析する時間もなく、どれ位の学校で反映されているのかも疑問である。
- 「経年調査」「すくすく」はどちらか一方でよい。「経年調査」はその年度の学習の成果や課題を知る材料になるが、「すくすく」はあまり役立っていない。
- 全国学テの結果を新入生のための冊子に載せるので、入学者数に影響がある。学年によって違うということを新入生の保護者は理解しておらず、この状態が続けば学校間格差ができる。
- 点数のみで子どもの学力が判断されている。教員の指導改善につながればよいが、ポイントが上がった/下がったの話になる。昨年、校長はアンケート結果を朝会で取り上げ、子どもに対して延々と話をした。校長には申し入れ済みだが、子どもにもアンケートをよく書くためのバイアスをかけているのかとも疑った。本年も全国学テの課題を話し、学習を促すことを行った。7月職会で質問する予定。
- 全国学テは各都道府県が対策をして、順位を競うようになっていることは大問題。そもそも「対策はなし」だったと思う。
- 問題を読み取れない児童に対して、毎年、どのように受験させるのか…。学校で判断するための基になるものがないので、毎年悩む。
- 点数を取らせようとすると事前の復習や対策が必要。
- 個人情報の記入やシールを貼る位置等、全教科で統一してほしい。担任一人で児童40人分の指示やチェックが大変。

- 経年調査などで、過去問をして解き方を学ばせてテストさせる。それでテストでできる子がいれば、それでもできない子もいる。過去問をしてできるようになったのかどうか。本当にその児童の実力かどうかもわからない。
 - 経年調査とすくすくウォッチが実施になってから学校の教育が楽しくなくなった。もっとクリエイティブでダイナミックな取り組みができるはずなのに。経年調査の範囲や結果を気にして楽しい取り組みができていない。楽しくない授業で結果が得られるわけがない。経年は百害あって一利なし。
 - 特支の子ども、特に抽出していてテストを受けられない子の対応。その子が感じる疎外感や、周りの子からの見え方など、いじめや差別につながらないか、インクルーシブから外れていないか。
 - 一連のテストが一人ひとりの児童の幸せにつながっているのだろうか。なぜ悉皆調査なのかよくわからない。テストを受けることができない特支児童は、そもそも調査外にされている。何のためのテストなのだろう。
 - テスト自体への意欲が生徒たちには弱くなっているように思われる。教員にも子どもの学力状況や生活背景との関係性が具体的に明らかとされ、指導法の方向性などが示されるのであれば意義はあるが、そこまでの分析がなされていないと思う。
 - すべての子どもに基礎学力をつけることこそが重要ではないか。「個に応じた教育」などという言葉に惑わされて「差があって当たり前」が当然になってはいけないと思う。
 - いずれのテストも保護者や生徒向けには「生徒個々のため」と強調しているが、そうでないことは明らかだと思う。特に大阪府のチャレンジテストの学年平均点で、評価の範囲をしぼるというやり方にはまったく納得できない。特に少人数の学校では、「自分が受けたら平均点が下がって、みんなに迷惑がかかる…」と感じて、辛い思いをしている生徒が何人もいた。こんな制度が許されているのか。
 - チャレンジテストがあるために「ここまで進まなければ…」と進度の面でプレッシャーを感じたり、色々させてみたい学習がスケジュール的に無理だったりすることが多く感じられた。正直何のためのテストかわからない。
 - チャレンジテストをすることで評価が高くなっている学校は、高校に行っても自分の実力がついていけない子どもが多くいる。評価が高くなることで進路は選択幅が大きくなるが、進路先で困る子どもがたくさんいる。
- アンケートご協力ありがとうございました。紙面の都合上、全員の意見を掲載することができず、お詫びいたします。